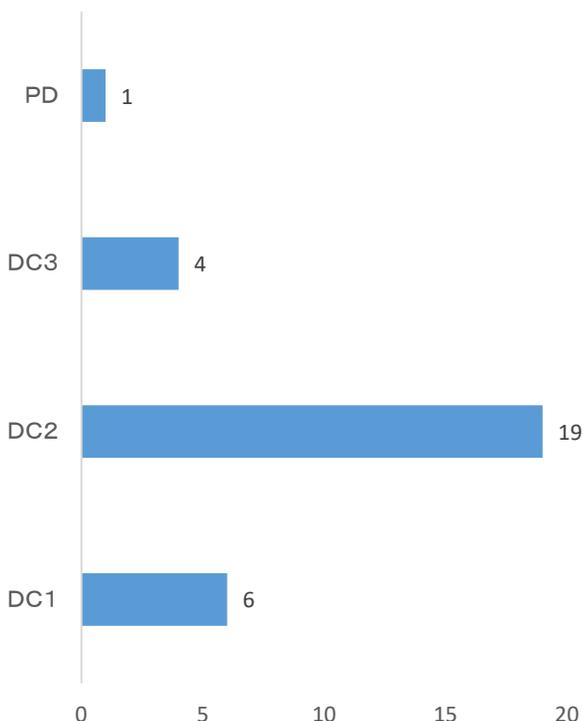


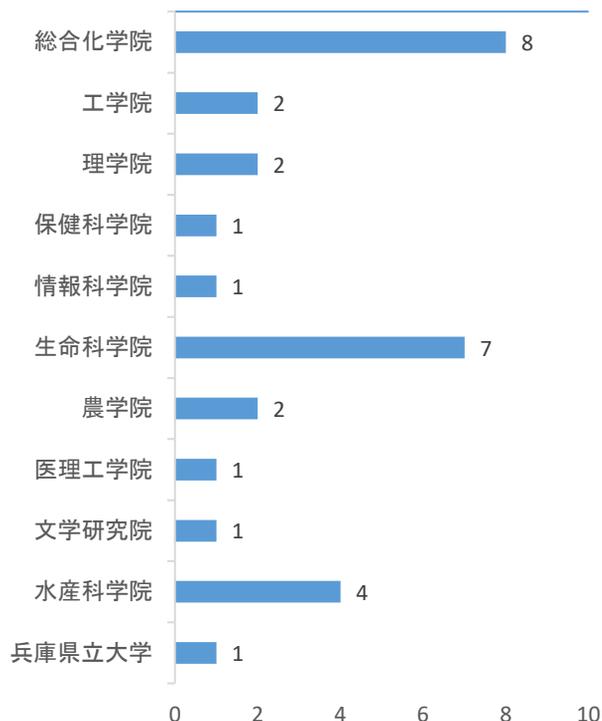
第56回 (R6第2回) 赤い糸会 アンケート

[1] 回答者：博士人材30名 (※うち24名分掲載)
企業24名 (参加者：博士人材32名・企業17社)

博士人材学年

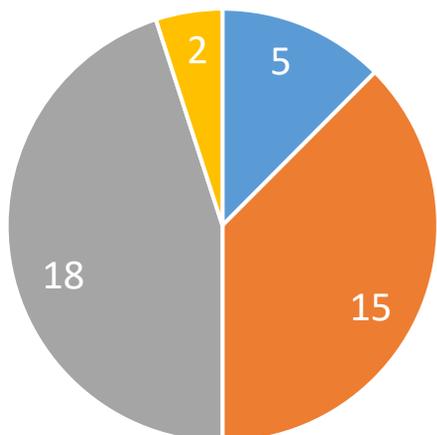


博士人材所属



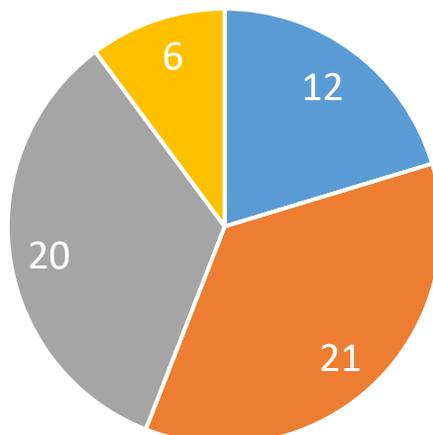
[2] 博士人材ポスター発表(複数回答可)

アピールできた点(博士人材)



■ プレゼン技法
■ 専門性
■ 人物・個性・特徴
■ ポスターのデザイン・レイアウト

注目する点(企業)

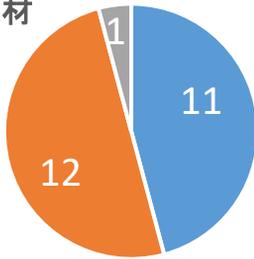


■ プレゼン技法
■ 専門性
■ 人物・個性・特徴
■ ポスターのデザイン・レイアウト

[3] 企業／博士人材とコンタクトがとれましたか？

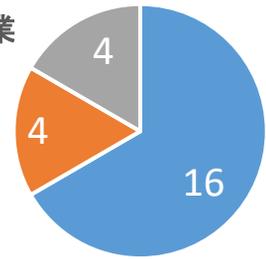
■昼食会でのコンタクトについて

博士人材



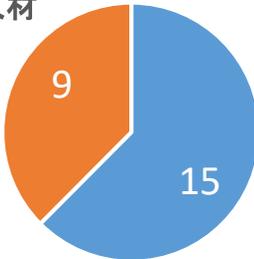
- 1. 十分コンタクトがとれた
- 2. ある程度はコンタクトがとれた
- 3. あまりコンタクトがとれなかった
- 4. 全くコンタクトがとれなかった
- 5. 不参加

企業



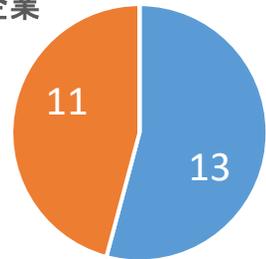
■ポスター発表でのコンタクトについて

博士人材



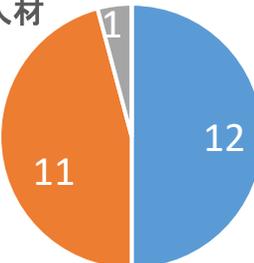
- 1. 十分コンタクトがとれた
- 2. ある程度はコンタクトがとれた
- 3. あまりコンタクトがとれなかった
- 4. 全くコンタクトがとれなかった
- 5. 不参加

企業



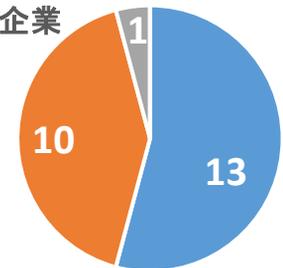
■企業ブースでのコンタクトについて

博士人材



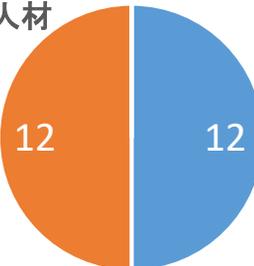
- 1. 十分コンタクトがとれた
- 2. ある程度はコンタクトがとれた
- 3. あまりコンタクトがとれなかった
- 4. 全くコンタクトがとれなかった
- 5. 不参加

企業



■情報交換交流会（懇親会）でのコンタクトについて

博士人材



- 1. 十分コンタクトがとれた
- 2. ある程度はコンタクトがとれた
- 3. あまりコンタクトがとれなかった
- 4. 全くコンタクトがとれなかった
- 5. 不参加

企業

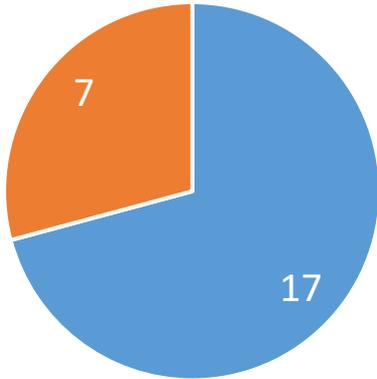


■プログラム全体のコンタクトについての感想（抜粋） ※博士人材

近い距離でざっくばらんに質問ができたので、より深い内容を知ることができたことが嬉しかった。
企業ブースの立ち回りが難しかった。オンライン時のように、ある程度事前の希望で振り分けが決まっていると落ち着いて話を聞けたかと思う。
これまでオンラインでの参加のみだったが対面の方がコンタクトが取りやすいと感じた。
企業ブースでの1サイクルの時間が少し多くなるとういなと思いました。
人気の企業ブースが一瞬で埋まってしまうため、前の企業との位置関係的に間に合わない場合が多く、もう2社ほど企業を回りたいという気持ちになりました。
すごく楽しかったです！その企業が何をやっているのかも大事ですが、どんなキャラクターの人がいる企業なのかということのほうが大事かもと思いました。
希望する企業と話せる機会が十分にあったと思う。ポスターや企業ブースでコンタクトが取れなくても情報交流会があるので、最終的にはコンタクトをとることが出来ると思う。
昼食会や情報交流会ではカジュアルな情報交換、ポスターセッションでは自分のPR、ブース訪問では企業からのPRといった、それぞれの時間で交流目的にメリハリがあったので、お話を聞きやすかった。

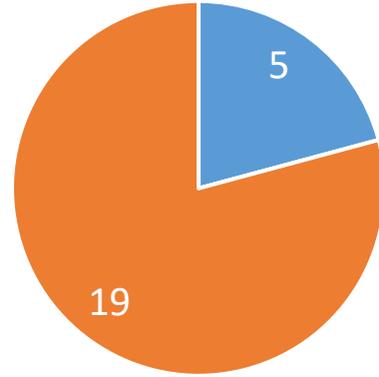
[4] 企業のみ

参加博士人材について



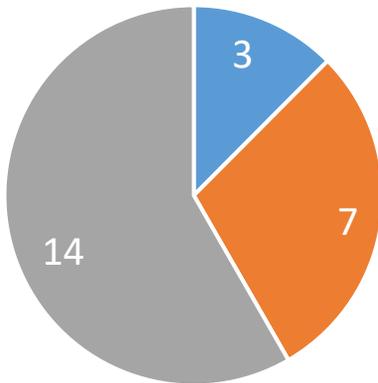
- 1. 欲しい分野の博士人材に会えた
- 2. 意外な分野の博士人材に出会えた

参加博士人材に対する今後の対応をお聞かせください



- 1. 採用したい博士人材がいたので、今後交渉を進めたい
- 2. 採用については未定だが、今後もコンタクトを取りたい博士人材がいた
- 3. コンタクトを取りたい博士人材はいない

DC・PDのインターンシップ(1ヵ月位)について

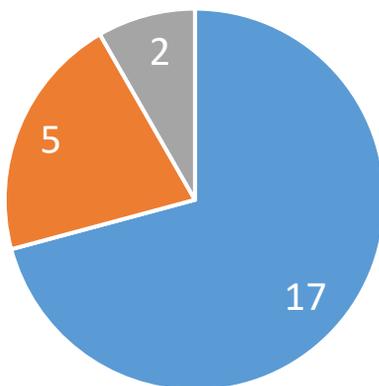


- 1. 受け入れを表明している
- 2. 受け入れてもよい
- 3. 受け入れは難しい

「3.受け入れは難しい」を選択された方：
差し支えなければ、理由をお教えてください。

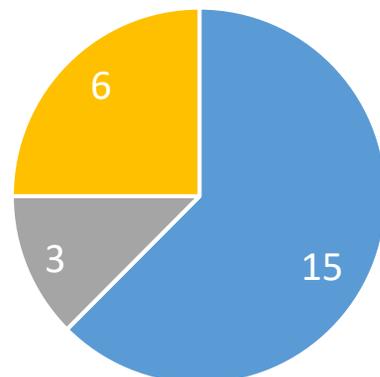
博士個別ではなく、修士・学士と同時で受け入れたい
月単位は期間が長すぎるため
社内のリソースの都合上、インターンシップの受け入れは一律でお断りしております。何卒、ご了承ください。
1か月ではないが、博士課程後期も対象者に含む形でインターンシップは受け入れをしている。
現状最大2Daysオープンカンパニーの開催が限度であるため（生徒のいる現場での実施は困難）
当社の事業特性上、インターンシップ自体の設定が困難なため。
会社として、夏と冬にインターンを行っているので、そちらにご応募いただきたい。
弊社の業務的な事情で、中長期インターンシップの実施が困難であるため

DC採用について



- 1. 定期的に採用したい
- 2. 時期に関わらず、採用したい
- 3. 採用については未定

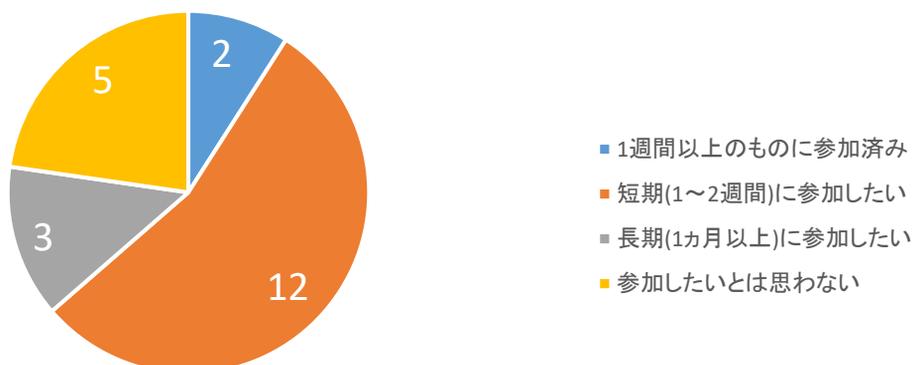
Hi-System(博士人材と企業の双方向ネットワーク)の利用について



- 1. イベント参加
- 2. コミュニティ
- 3. 博士人材検索
- 4. 利用していない

[5] 博士人材のみ

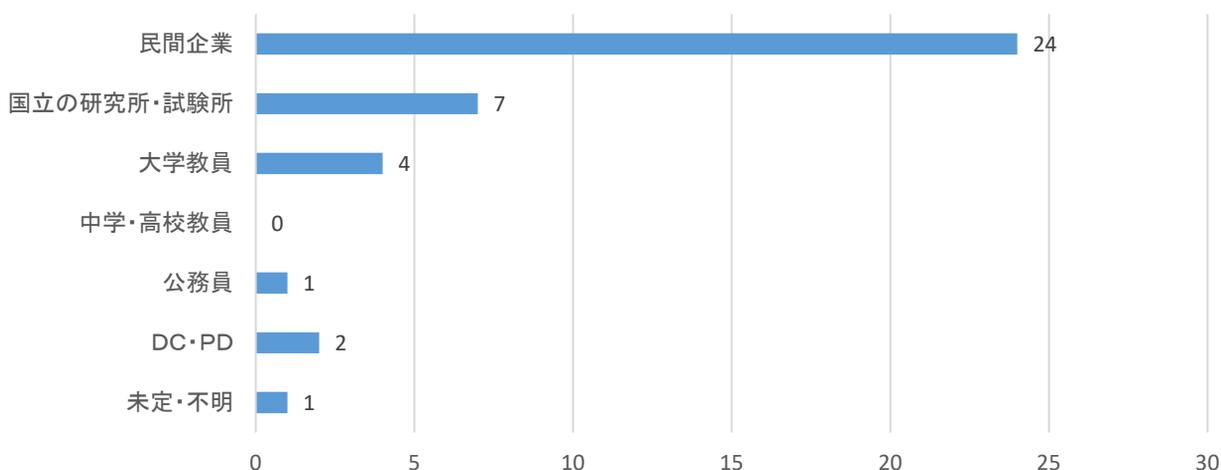
本会参加の企業に限らず、インターンシップに参加したいと思いますか。



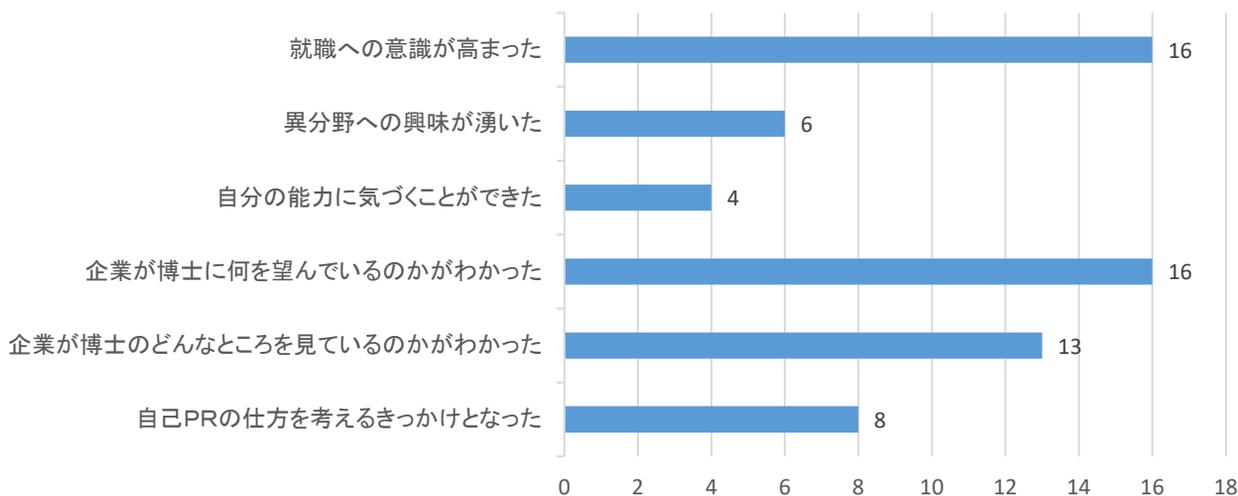
その他の回答:

短期インターンに参加したいと思っているが、志望業界が製薬企業でありマッチングを重視した方が良いとの観点から、現在はインターンへの参加はあまり考えていない。

あなたは、今後のキャリアパスをどのように考えていますか？（複数回答可）



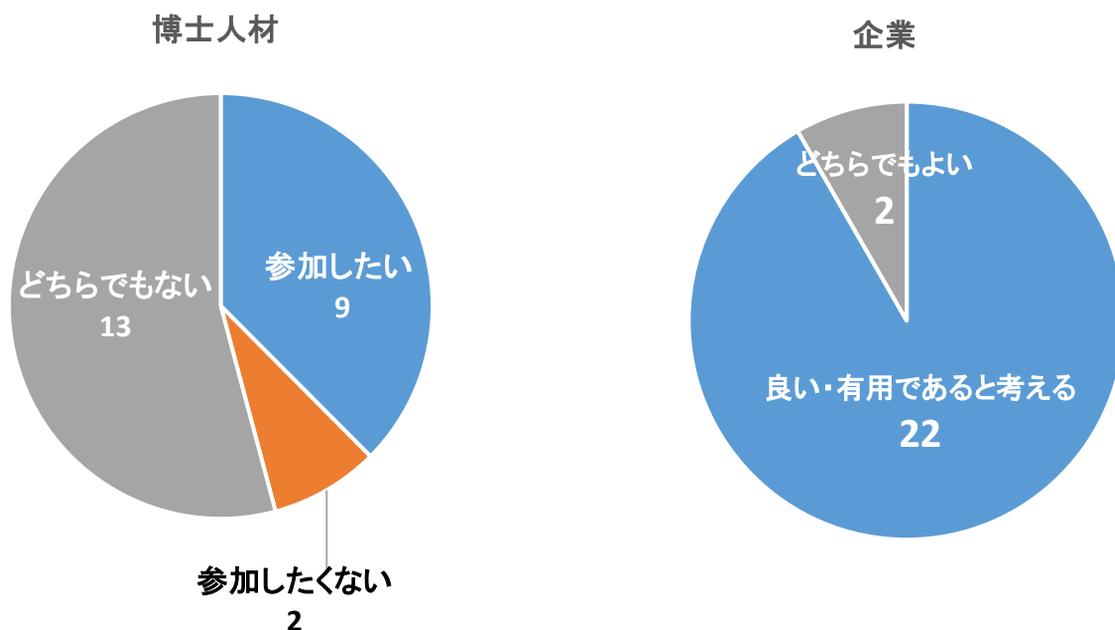
「赤い糸会」は、進路決定の参考になりましたか？（複数回答可）



[6] 「赤い糸会」に参加して新たな気づきはありましたか。
それはどのようなことですか。（博士人材のみ）

1	主体性がかなり高いことを認識した。
2	想定していたより研究開発への取り組みが企業によって異なっていることを感じた
3	事業内容からは関係無さそうに見えても、基本的に必要な知識や能力として化学力を求めていることです。
4	自身が置かれている状況について確認できた。
5	HPや説明会では得られなかった自分に適応した情報をここだけの話という感じで知ることができたので、非常に参考になった。採用の裏側や担当者の想いなども聞く機会があり、勉強になった。
6	人事の方の苦悩がかけて、興味深かった。
7	様々な企業の方とお話させていただき、会社ごとに求める人材の違いや社員同士の雰囲気が大きく異なっていた。
8	自身の専門分野の知識が広く求められていること
9	赤い糸会では企業から博士人材の見極めだけでなく、博士人材から企業を選択する機会になっていると考えているが、企業によってはそのような意識は薄いのかなと感じた。
10	自分の研究は企業で活かしにくいと思わずにいいこと
11	研究の目的という部分で、企業側が世の中にどう役立つかという部分を意識してほしいということがわかった
12	これまで注目していなかった企業にも注目いただき興味の幅が広がった
13	これまでの赤い糸会や対面プレゼン演習の経験を通して、背景や予想されるインパクトの表現の仕方を変更したところ、いつもよりも企業の方から評判が良いと感じました。目的に応じて表現の仕方を変えることの重要性を改めて感じました。
14	企業側が専門性として捉えられているのは、機器やデータ解析といったスキルの場合もあるがそのスキルの根本的な考え方や操作そのもので培う汎用的な能力の場合もあるという気づきを得た。
15	すべての企業ではないと思いますが、数社は志望動機を全く見ておらず、学生が何を成し遂げてきたのか、その中でどんな思考方法をしてきたのかという点を非常に重視していたということを知り、何をしていくのかということと同じかそれ以上に、これまで何をしてきたのかが大事なのだと気づきました。また、オンライン開催のほうが参加はかなりしやすいですが、やはり対面だと気軽に話を始めたり、簡単な話題をひよんな拍子に始めやすいということに改めて気づきました。
16	ポスター発表では「あなたの就活の軸はなんですか」といった質問がかなり多く、この手の質問も自分をアピールするうえで重要なのだと気づいた。
17	研究分野が一致していなくても研究内容の切り取り方の視点を変えることで、研究内容をベースにマッチングできることに気づいた。自分の研究はロケット分野だが、高温環境における素材の耐久性に関する研究という切り口だと、素材メーカーともマッチングの可能性があると感じた
18	企業によって博士採用に求めていることが異なると感じた。事前の企業研究が必要と感じた。
19	自身の研究内容・専門性を活かすことのできる分野・企業は想像しているよりもずっと多くあることに気が付きました。
20	今回初めて対面の赤い糸会に参加し、専攻の合致度は大切だがそれよりも人として合うかどうかのほうが大事なように感じた。
21	化学メーカーでもライフサイエンスやヘルスサイエンス分野にも力を入れている企業が多いということを知ることができ、今後のキャリアパスを考える際の視野が広がった。
22	やっぱり企業と自分のキャラクター（雰囲気、空気感など）が合うかということが一番大事だと思いました。
23	これまでは製薬業界をメインに就活をするつもりであった。それは以前13大学合同説明会で化学メーカーの話聞いた際、「事業が幅広いぶん、ライフサイエンス事業をやっているも自分の専門や強み(生命科学や分子デザイン)を活かせる場面が少ない」という感想を抱いたからであった。しかし今回を通じて、企業によっては化学メーカーであっても自分の専門や興味に近いことをしていることがあるのだと知った。

[7] 東北大学・名古屋大学・北海道大学におけるコンソーシアム（全13大学）の取組みで、本会のような各大学マッチングイベントに連携大学の学生が参加していることについて



コンソーシアム(全13大学)の取組みについてご意見がございましたらお聞かせください。

春にインターンシップの説明会が出来ると良いと思います

複数の大学の学生さんに会えること。複数の会場で同じ学生さんにお会いできること等、弊社にとってメリットが大きいと感じています。

博士人材の皆さんがこうした取組みに参加することにより企業とのコミュニケーションの経験を重ね、2年目3年目の博士人材となると社会に対してかなり広い視野を獲得している方が見られます。人材育成や成長という観点でも素晴らしい企画だと感じています。

[8] 今後、博士人材へ期待すること・要望など（企業のみ）

1	人間力の魅力を大事にしてほしい
2	専門性、そのほかスキルの研鑽
3	新しい分野へのチャレンジ
4	専門性を深め、かつ少し高くて広い視野も気にかけて欲しい
5	基礎研究だけでなく、製品開発や新事業探索などビジネス寄りな仕事にも関心を持ってけると有難いです。
6	自身の専門性を磨きつつ、幅広い分野へ関心を有すること。
7	専門性・主体性・自身の専攻とは異なる分野への興味
8	人間力を磨くこと
9	ゼロイチを生むことができる、自ら主体的に新しい研究活動を開始できること
10	専門にとらわれず博士課程で得た解決力の発揮
11	専門分野のみならず、様々な可能性に目を向けたキャリアビジョンを描いてほしい。
12	専門性を発揮するとともに、入社後は主体的に新しい分野にも挑戦し成長することを期待します。
13	やりたい研究を精一杯やっていただきたい。
14	専門性に限らず、自身の可能性を広げる意識を持ってほしい。
15	主体性を持って働くことへの意識
16	博士課程で習得した課題発見や課題解決の力を発揮して様々な技術領域や業務に挑戦されると、活躍の可能性が広がると思います。
17	専門性、0→1経験
18	学生時代に論理的思考力・基礎学力を身に着け、専門性を高めると共に、今しかできないことを考えて目標を定めることで、将来イノベーションの担い手として活躍されることを期待しています。
19	研究に邁進して、3年間でよい経験を積んでいただきたいです
20	専門性を武器に研究を主体的に推進できること。
21	専門性をベースとして、研究テーマの形成力や後輩指導の能力などに期待を寄せています。当社にも博士が多数おりますので、今後とも定期的に採用をしていきたいと考えています。
22	ご自身の研究を深め、探求心あふれた人材に成長してほしいと思います。
23	総合的な人間力。プログラミング能力

[9] 全体を通して、「赤い糸会」（赤い糸ONLINE）についての意見、要望など

博士人材

1	日程等研究との兼ね合いが難しかった(講習など)
2	ポスターに複数の企業の方が来られても学生は問題ないので、より多くの方に話を聞いて欲しいと思いました。
3	工学や化学分野以外の人材を求めている企業が増えると、より幅広い専攻の博士人材にとっても有益になると感じた。
4	対面開催は、オンライン開催よりも濃密な時間を過ごせたので、機会を増やして欲しい。
5	学生側からの企業のリクエストがあると面白いのでは。
6	これまでonlineの赤い糸会しか参加したことがありませんでした。初めて対面に参加して、対面の方が確保しなければいけない時間が多い一方、コミュニケーションを取りやすく得られたものが多かったように感じました。
7	オンラインでも参加したが、対面開催の方が多くの情報を手に入れることができた。
8	名札の紐を黄色など見やすい色に変えてほしい 黒字のスーツに緑の紐は視認性がわるく教員との見分けがつきにくかった。
9	とても丁寧に、ポスター指導や当日の案内などもしていただき、ありがとうございました。
10	対面の機会が増えるといいなと思いました
11	オンラインでも初めの短い企業説明の時間を設けてもいいのではないかと感じました。
12	専門とかなり異なる企業との交流の機会も持つという企画の趣旨や事前に全ての企業の情報を頭に入れることが難しいことを考慮して、企業ブース交流会の初めに事業内容や研究拠点などについて簡単に説明していただけるとどの企業との交流も有意義なものになるのではないかと思います。
13	実現は絶望的かとは思いますが、函館での開催をしていただけると助かります。 規模縮小版だとしても非常に魅力的です。
14	特にありません。今回はこのような機会を作っていただきありがとうございました
15	スムーズな進行誠にありがとうございました。
16	休憩時間をより多く確保していただきたいです。
17	時間配分やポスターの配置など、とても良く考えられた会だと感じました。博士の就職活動は身近に参考になる先輩などがいないことが多く、わからないことだらけなので、今後も続けていただきたいです。
18	企業のショートトーク終了後からポスター発表終了時まで、明確な休憩時間がなかったことが大変でした。昼食会の後、ポスター発表が始まる前のタイミングで10分程度の休憩時間があるとよいなと感じました。
19	自分の中での気づき・学びと言うべきだが、就活における「わかりやすい発表」とは、平易な語句で表面的に説明をするのではなく、聞き手の求める情報を、聞き手の思考フレームに沿って論理的に説明することなのだなと感じた。特に研究をされている人の場合、この傾向が強いと感じた。専門家向けの「わかりやすい」ポスターや補助資料は別個に作っておくことが重要だと感じた。(すでにこれはアナウンスされていたので、意見要望では無いかもしれません。)

企業

1	魅力ある博士学生との接点を持てる
2	素晴らしいイベントでした。今後ともよろしく願います。
3	円滑な運営が出来ていて、スタッフさんから学生を案内されて大変良いサポート頂けて有り難かったです
4	今回も確実な運営でストレス無く学生とコンタクト出来た、交流会での拙い挨拶はお許ください
5	学生の意識も高い、学生からは大学のサポートが厚いとのコメントもあり素晴らしいと感じました。企業ブース説明セッションが1回20分は少し短いです。午前の企業プレゼンを少し短くしても良いので、企業ブースでの時間を25分はとって頂きたいです。人数も3名でも良いかと感じました。
6	企業ブース交流会では、人気の企業の席が埋まっており、交流できなかったという声が聞かれた。一回あたりの人数を増やすなど、対策をお願いしたい。
7	非常に有意義な時間を過ごすことができました。次回も機会をいただけましたら、ぜひとも参加したく存じます。ありがとうございました。
8	企業プレゼンの時間が長すぎる。ブース説明でよい。
9	初めての参加となりましたが、お互いをよく理解する知る場として非常に有益だったと思います。
10	今後も継続いただきたい
11	実際採用に結びついたケースもあり、当日の運営も含めて、素晴らしいイベントであると感じています。
12	多くの学生と1対1で交流することで、各自の今後の希望についてきちんとヒアリングでき充実したイベントになりました。
13	北大OB(博士)だが、就職活動にこれほど力を入れていることを知らなかった。
14	博士学生との接点を持つための企画を複数用意してくださり、得難い機会となっています。
15	熱意を持って研究に取り組んでいる学生が多いと感じました。また説明がわかりやすく良かったです。博士人材が企業で働くイメージができれば将来への不安も減るかと思しますので良い取り組みだと思えます。
16	細かい運営面のお話ですが、後半の企業ブース訪問の時間は学生の移動時間を考慮せずに20分のカウントダウンがされており、タイトな運営になっておりました。数分のインターバルを設けていただけるとありがたいです。
17	学生から対話したい申し出があったが、席数制限もあり、お断りすることが多々あった。全体最適も理解しつつ、学生目線に立つとせっかく企業とお話できる機会損失につながるのではないか。
18	様々なイベントが凝縮されており、1日を通じて各学生をよく知ることができました。また、学生から「化学メーカーでは活躍できないと思っていたが、話してみて印象が変わった」等有難い感想もいただきました。
19	企業と学生がしっかり交流できるプログラムとなっていてよかった
20	過去博士学生として、今回企業側として本会参加させていただき、両者にとって非常に良い機会であると改めて感じました。今後も、対面での活発な交流・意見交換の場を設けていただけると幸いです。
21	博士学生に期待する第一の要素は専門性であり、我々のような企業だと工学部の領域がメインになります。できましたら、工学部に関連しそうな企業を集めて開催いただきたいと思えます。
22	会の進行につきましては、博士人材たちが特定の企業に偏ることがないようにご配慮いただいております。弊社のような中小規模の企業にとっては大変ありがたいと感じております。
23	数学、物理系の学生の参加をもっと促して欲しい

[10] J-window（先端人材育成センター担当教員との面談、エントリーシートなどの添削、面接練習）の利用について

- 既に利用している
- 今後利用してみたい
- どちらでもない
- 利用する予定はない

